

令和8年8月1日

支援物資活用報告書

氏名：巢守世那

隊次：2024年度2次隊

派遣国：タンザニア

配属先：ムワンバオ小学校

職種：小学校教育

派遣期間：2025年1月～2027年1月

私は現在、タンザニアのバガモヨ県にある公立ムワンバオ小学校にて活動しております。1年生の算数の授業を担当するとともに、2年生～5年生の算数授業の補助として教材の提案を行っています。また、毎週日本語や日本文化を紹介する授業のほか、日本の小学校とのオンライン交流なども実施し、タンザニアと日本をつなぐきっかけづくりに取り組んできました。このような活動を行う中で、この度、福井県の皆様から温かいお力を賜り、ムワンバオ小学校にて支援物資を受け取ることができました。授業で有効に活用させていただいておりますので、以下の通りご報告いたします。

1. ムワンバオ小学校の現状と支援物資を呼びかけるに至った背景

ムワンバオ小学校は、1学年100人弱ほどの規模の学校ですが、教室や教員が不足しているため、1つの教室に多くの児童がすし詰め状態で授業を受けています。実際に授業を行う中で、日本との環境の違いに戸惑うと同時に、これまで当たり前だと思っていた日本の教材の素晴らしさを実感する場面が多々ありました。

特に現場で課題となっていたのが「教材の不足」です。現地の先生方は説明中心の授業が多く、教材を使う機会がほとんどありませんでした。しかし、特に低学年の児童においては、具体物を用いて視覚的にイメージすることが理解の大きな助けとなります。そのため、これまでも小石やペットボトルのキャップ、紙など、現地で手に入る素材を使って教材を作成・提案してきました。しかし、工夫して作成した教材も黒板に貼り付ける手段がなく、毎回セロハンテープで貼っては破れてしまい、繰り返し使えないという問題がありました。また、視覚教材としてのサイズも小さく、後ろの席の児童からは見えづらいという課題や、学校に資材を購入する予算がなく継続的な作成が難しいという困り感もありました。そこで今回、福井県での支援物資のご活動についてご紹介いただき、この貴重な機会をぜひ活用させていただきたいと考え、支援のご要望を出させていただいた次第です。

2. 集まった物資の数

算数セット	21 箱
数ブロック等	33 個
計算ドリル	28 冊
算数の教科書	33 冊
理科の教科書ドリル	23 冊
マグネットシート	10 枚
ホワイトボード	8 枚



3. 活用状況

タンザニアにおける課題の一つに「物を大切に扱う習慣」が定着していない点が挙げられます。そこで今回の支援物資については、すべての備品に番号を振り、保管場所や適切な管理方法を現地の教員全体に周知・徹底することから始めました。また児童に対しては、授業を始める前に「福井県の皆さんがみんなのために送ってくださった大切なものであること」を話し、大切に使うことを約束した上で活用しています。

タンザニアの算数のカリキュラムは日本に比べて進行が早く、1年生でも「2桁+2桁」の繰り上がり・繰り下がり計算を学びます。しかし、従来の指導では繰り上がりの仕組み自体を深く学ぶ機会が十分にありませんでした。そこで現在、1年生の授業では繰り上がりの仕組みを丁寧に指導しています。特にこれまで「10のまとまり」という概念を言葉で何度も教えてもなかなか定着しなかったのですが、実際にブロックを操作しながら「10のまとまりを作る」という視覚的・触覚的なイメージを持たせることができ、児童の理解を大きく助けています。今後、中・高学年においても、掛け算や割り算の意味を説明する際にブロックやおはじきを積極的に活用していく予定です。

そのほかにも、お送りいただいた計算カードを活用して反復練習を行っています。カードを配ると、児童たちはとても嬉しそうな表情で楽しそうに取り組んでいます。掛け算カードは段ごとに分けて整理し、1クラス分として十分な数を揃えることができたため、今後は毎授業の導入などで活用していきたいと考えています。

さらに、現地の先生方もこれらの教材に非常に興味を示しており、「今度時計の授業をするのだけれど、教材はある？」と自ら探しに来てくれるようになりました。実際の授業でも、黒板のイラストだけでは区別が難しかった「1時1分」と「1時5分」の違いについて、児童が自ら時計の針を動かすことで気づきを得られるケースが増えています。



4. 最後に

上記でご紹介した事例は、活用状況のまだほんの一部に過ぎません。今後は、日本の教科書も先生方に見てもらいながら、日本ではどのように授業を組み立て、教材を活用しているのかを具体的に提案していきたいと考えています。授業を通じて、児童が少しでも「分かった!」「できた!」と感じられる瞬間を増やしていくこと、そして教材が先生方にとっても指導の心強い助けとなることを目指します。

改めまして、この度は温かいご支援とたくさんの教材を届けてくださり、心より感謝申し上げます。国際情勢（中東情勢）の影響により輸送が困難な状況であったにもかかわらず、様々な方法を模索して無事に現地まで届けてくださった関係者の皆様のご尽力に、深く御礼申し上げます。